へ 5
1354

5
門 利
號 1354
卷

早稲田大学図書

午内立春

十日ばかりさきの春を
待ちかねぬ人の心は
うたがはし

四皆庵
紀逸

晩里

明治三九年六月一一日
市島謙吉 文書贈

無常やまと
立ぬ尾花
ゆく

砧月

歳旦

魚鳥もふるめでたう松の雲　紀声
蓬莱の新年勢田橋を格　田社
世間や向かの人へ墨と孫子　金幣

共二

起〳〵の新年ふしもむの雲　亀文
茶は世間よりも見の打枝　貴月
二の碁り太刀の貪欲は日ゝ書く　紀声

共三

大原の地より行者〳〵玉の春　田社
無ものの丈かゝ竹　水語
伯物見も若を不物〳〵　亀文

共四

有るよも人の徒義や三ケ日　貴月
野深ものゝ多々黄凍　金幣
物乞ひ雷ひとりの言伝〳〵　田社

共五

蓋国やミゝ紀好〳〵二十年　水語
加のもの系は水を賣り　紀声
薩摩紙若の戸出る時〳〵　貴月

其六　信濃の素堂をおもふて

[illegible]の東へ[illegible]むの素　金幣
袖よりあまるうきの玉笹　亀文
[illegible]めの暁ふるかしく　水語

雞晨

[illegible]ふるあやめ花の素　我聞
嵐の雲　妹菖蒲の松　牛子
かるる風きりぎりすと糸をとる　紀常

其二

[illegible]の素　茶外
[illegible]のつりも[illegible]　我聞
[illegible]て[illegible]をそねたまふ　牛子

其三

星の山星もふる向[illegible]　紀常
[illegible]の門の松作　茶外
[illegible]の[illegible]も[illegible]　我聞

其四

[illegible]の素
[illegible]の[illegible]行墨子[illegible]　牛子
種[illegible]の芽[illegible]　紀常
　　茶外

聖節

門松や和く西北こそ砥月　紀暁

[illegible]の宣[illegible]の[illegible]形[illegible]晩里

其二

祝[illegible]の彩[illegible]利福[illegible]　敬之

今年[illegible]　獅三

[illegible]　五雲

其三

[illegible]日の[illegible]　逸人

[illegible]和[illegible]　里先

[illegible]の[illegible]乃[illegible]　晩谷

其四

[illegible]の日の[illegible]　逸己

[illegible]　長計

[illegible]　鷺松

其五

宣のすいて長[illegible]三ケ日　羽上

[illegible]服肉と　樋[illegible]　買秋

[illegible]　湖声

其六

出初年梅の一字も白ひうか　紀梁
いろ〻に咲くやうめ子　尋牛
鶯城のかりの名こいかり竜　文国

其七

年柳や旭とうさ新来文　南栗
新年ろ〻へ〻く源文学　及兆
紫の彩山を就のを梅ふく　尚江

其八

大王のふく袴のうや明の去　金馬
年君に沢を差紀　逸夏
俤俤昨浮世一たゝき姿みく　非石

其九

世世忍の紀と」る祝〻旧の始　桃川改　鳥雲
多のぬるもも中数乃子　五雲
藝宛の書〻とうふ乃ふ　晩雪

其十

白駒改　流螢
[illegible]や福寿の男茅　晩谷
[illegible]玉ふく海ふく掃　素節
人ふふ黄ふを懸ふ目年分く

其十一

人も疲も沙色くむ兎の長ふ小　逸兎
牛の年年ハ月紀みふ　鷲松
田鍬ふ年の京を上年ふく　對嶺

其十二

[illegible]のいはくるまの音[illegible]初日かな　紀曉

色紙とくしまかしかりぬ　紀逸

麦畠や紀ぬのたれかくらく　紀木

其十三

農[illegible]巨燈もしをれの去　獅三

[illegible]の月[illegible]ふ爽　湖声

芋咨ぬ人のたろい静みく　紀雙

其十四

出初やまつ門[illegible]のしたなり　里先

男のゑみはめるぬ板　文国

洲の河やたろう柳の揺まあるく　逸九

其十五

[illegible]日や伊百[illegible]ありの[illegible]の氣　長計

うれの袂[illegible]逆八田はたり　禹江

たたくと苔[illegible]を東風吹て　紀葉

其十六

[illegible]や[illegible]縁寺所のうち牛　買秋

[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]朝　非石

[illegible]笠[illegible]ちうは笠もあるまちん　梅紗

其十七

初とりや一[illegible]洲の去　尋牛

[illegible]夫[illegible]九[illegible]去著　晩雪

沖返り[illegible]も[illegible]　冠子

其十八

識飛の京は久しや郭地玄　及兆

名ゆハ天空ぬる返の旅　素節

寒くむ子地古家もうきみて　梅留

其十九

半卿や車ゆ[illegible]の今日の出　五雲

[illegible]さく[illegible]名小者　紀木

東稲ハ兵連麹乃結あまて　杏園

其二十

楢本殿も三保も閑子緑うゆ　晩谷

ゆふ宗初まゆ孫子高　紀雙

玄鏡ゑも祝ひの名ゆて　紀屋

其二十一

泥ちけゆ玉の帯もゆうの姫　鷲松

三人ゆ[illegible]別紙尺る　逸丸

玄ゆちちら花ハあゆかす　桃里

其二十二

初の宮ゆ玄家も延くゆくの春　逸夏

ゆうゆ舟鶯英夢地汎　對峩

雪業菊西の人乃口きて　紀重

其二十三

仕保形や子源子海子松の玄　湖声

故乃形ゆ[illegible]被姫の筆　紀葉

赤い紙沙茉油苔の夢ゆて　笠丸

其二十四

拍無しもなりまし月の始不苗　文国

柏雲のもとりいる竹子立　梅紗

山蔵の山椒の実を摘　兎九

其二十五

えだ日や春の春とも花山桜　禹汪

かたんの縁のきらく　柏雲　冠子

廿四日十二月を一年塙とりて　きんき

其二十六

破屋うや立ぶ子年梅の花　非石

ある沙柏年筆の杉を免　梅留

窓梅まもふ蔵き雲の朱く　敬之

其二十七

流離千程うちも陰深きうにめ　晩雪

山雀の鳴も美紀鳴うさり　紀童

うやう人吹白のさくく　逸人

其二十八

人生年向ふ東や初子小　素節

日一通雲かさく林玉　杏園

雲の門の梅年高のうて　逸巳

其二十九

松立く門年高の色子代の雲　對峩

大馬一番年好年を拍　紀屋

巖壁のうの山去を向く　羽上

其三十

人麻呂かあやく五のえ　紀木

年男みはまれとをあり　桃里

年を吹こうばを重くはう　紀梁

其三十一

雨分の性先（ゑ）ゑや云の雲　紀雙

湯殿始のかゝと沸ゑ彩　笠丸

稽古しゝ年能拵形而と示　南栗

其三十二

万葉やかゝ（ゑ）ゑ（ゑ）ゑ（ゑ）ゑ云　逸丸

茶の香のゑる福茶の沈　兎丸

公魚を年簡の蒙を降く来て　金馬

其三十三

年待や碎もわれく梅ゑ門　紀葉

書分を殿茶菓橋屋く　きんき

五月雨雲の日向を猿ゑゑ　鳥雲

其三十四

まゝ戸年素行ゑ男　梅紗

八町堀ゑまとゑ立ゑ　敬之

蒙を車の下も行桜天　流螢

其三十五

浄神年雪の為神中行兎　冠子

女は馬ゑ返入る万葉　逸人

長いのを人乃ゑゑ此雲ゑ　逸兎

共三十六

まれに訪ふ人の乗物の門脇　梅留
代地のうちは蓑目千立　逸己
猫の恋ゆゑ次人の不参　紀暁

共三十七

年既千四百年祢宗坂　紀童
猪の之へ起る蓼蓼　羽上
牡丹は咲けるうちを名ゑ　獅三

共三十八

春雨を添へし門脇　杏園
初日の影をいとい　紀梁
糸ゆふよりの糸を色　里先

共三十九

色ゑや遠ゑうる神のお発　紀屋
ふるくも牡四条三　南栗
第ゑ山猪のをかをもて　長計

共四十

之抱や中川柿ゑ初霞　桃里
辻ゑ川の遠る打ゑ　金馬
空ゑ高ゑ中ゑの去ゑ　買秋

共四十一

の高かの一部ゑ　笠九
うさりゑ炭もあくの沼　鳥雲
帆ゑ切さゑ年ゑ　尋牛

其八四十二

去年生くるくるの冥者りむの去　兎九
青紙の神も知る日の柳　流螢
汲茶碗さんぬ所ちるるくく　及兆

其四十三

一業を新も所ち年の新　まんき
大ふく茶碗　水ふくれ　逸兎
ぬちちやえちれも去の扇ちく　逸夏

其　軸

明るのあされちちやるの朔　晩里
楷りさまく人地紙の香碪月
山を乃良を咲まてハ陽ちく　紀逸

新年

歌仙行　　関宿組合連

大ふい板の馬絵をんめのむ　紀逸
茶もロきくくる小場　紀言
表の風面も所ちを振向く　午今
子秋　馬午　笑ち　紀ち　逸峯
明ちけて月ちくるる　挽笑　紀積
桑拾　先ちく初汲の舟　執筆

逸車
紀貫
壺外
紀明政
紀潮
紀芸
逸以
逸下
紀悠
紀行
逸推
紀求
執筆

逸峯
午兮
逸以
紀芸
紀言
紀積
紀悠
壺外
紀行
逸車
逸下
執筆

振神楽踊の中手風ふき　紀潮
能服肉よりも九山茶花　紀求
陽子かゝる山路しく伸びのり　逸推
笠蔵の側下蔵に貧笠　紀貫
大ふさは枝の笠縫を神の宮　紀逸
笠もにはきくとあるをし　孰筆

編花

笠捲く来る人多ふし梅の色　紀言
三日月も形下白めやむ先乃宮　午今
宮しの宮形しや梅れ巻　逸峯
樓下陰ふ梅い笠を松う水　壺外
梅側へ待を誘ふく人めの色　逸以

梅ふ番や笠へ遠ふ梅の後　逸下
笠とれい昔乃廣しむ先の苔　紀積
赤坂も梅れ余苔や昔乃風　紀貫
呉弁ふ並んく梅のきいひ　逸車
松枝の祇の志ましりやんめの色　紀潮
笠色ふあのおる色祇系堂　逸推
ためくや社形ふくを紀衣の乃　紀芝
菜の湯衣の去色の別海や梅の宮　紀悠
一反の島を返めや卦竜梅　紀行

春興

まく尺新梅の志しめや若菜乃　紀求

人日

[illegible]
[illegible]
懷山

[illegible]
[illegible]
紀逸

[illegible]
[illegible]
湖十

東君

[illegible]
[illegible]
志濕

青帝

[illegible]
[illegible]
桃笠

氷華

[illegible]
[illegible]
仝

元旦

四海雲霞晴中六十圓　李冠
上々日和元日の元旦　紀逸
小松髮に毋も梅も新年をく　許人

春陽

新しくみ年の玉の去　壽山
年も若々しくもと恢甲子　紀逸

三元

よもの門を開中弓矢飛丁　止諺
初春ゼ若菜つまんとハ一る　紀逸

詔光

元日や門大黒の笑ひ新　三松
門と散て内うさぎ吹　紀逸

春章

門々ゝ年の今屋や松の琴　琴之
二人みすれ神の仲保所　紀逸

夏正

新とゝの掃ふを掃者の春　白泉
室のゝとゝを祝ふ大ゝ　紀逸

上日

寿命とゝ掃ゝ玉の去　風諺
山厨若を待丑一切　紀逸

王春

一夫行り至の眠さやりふの玄　斜明
歯のうめれと梅を梅栗　紀逸

改旦

若水年之梅の白い外　未九
歴の石も書紀桂　紀逸

更始

文代祝屠き也の婚や福寿草　敬亭
みるみる若を引くく元日　紀逸

開端

寺院とうとう明暦のむ矢の也　百爾
寺もうれ亭の四方戸　紀逸

新暦

歯固まるれハ柳のうとを外　残鼠
毛穴うめれ椒の浮初　紀逸

孟春

中川古地の菜と咲や石の梅　桂龍
汎も寺く教の年　紀逸

年肇

門松や世ハ根ぶきのさまを石　成章
ゑ合八の　紀逸

履端

波を春を波を初日の庭湯外　露関
黄金色波の祝の　紀逸

正朔

をとゝいつるをとゝのやゝ梅の花　敬中
初音とおもはるゝもかなし　紀逸

雞晨

蓬莱や海の白ひも霞の先　露計
蟹井と筏下るさはる初　紀逸

三朝

垂の脊も動く初りくるか　五葉
下るい候午白ふ系西海　紀逸

新年

香を配るとしの運ひや梅の花　舟木
梅枝ゝもるひくまを柳　紀逸

聖節

梅ゝ香を結ひ添ふ初ふか
紗捲ふ初静ふ高系　紀逸

雞旦

ちゝ初や雲の白ひも梅の花　梅兒
実添初桜ふとゝふく松　紀逸

立春

門松の根を炉へふ泥ふ系　実茶
ゆとゝてかゝ年の試　紀逸

青陽

色香を容後の伊達やきゝ姫　桐陰
心恨の袖を濡るふゝく　紀逸

逸民

梅ゝ香や草庵ゝ袋賣ゝ　志静

[illegible]　紀逸

孤山

[illegible]　虎文

[illegible]　紀逸

編花

[illegible]　冨章（神奈川）

[illegible]　紀逸

清客

梅ゝ香や椽の[illegible]　思行（三河）

[illegible]　紀逸

氷肌

[illegible]　超月

[illegible]　紀逸

額英

梅の香や[illegible]　介瓦

[illegible]　紀逸

侵倶帥　立　忘[illegible]

鷄日

初恋の[illegible]　浙江

校[illegible]　紀逸

孟陽ハ[illegible]

一[illegible]　紀幸

[illegible]　紀逸

歳序

月かさなる雪やむめの花　敬和
はるかすみ　紀斐
双葉の春あくさらぬ松をかな　敬賀

元日やこの年の春と千亀　逸保
紅梅の年始　紀千
多逸も門に松ある春の来く　紀斐

一とせふる二のとせや梅のもと　紀斐
春をまつ　紀千
大年は世はうつるもあきく　今

東君

門春や少年の春の吹聴の
鶯も蕗の葉
門の内の花の春めく　歌扇女　里橋　花風

玉葉

紅梅や陰の日の梅の花　乙柳千歳庭
陰の後の一家のくし　紀逸
春雨の二味線ぶし和仁まく　紀声

餃雪

雪ふれば雪のかしらの雪の雪　其外
雪の方へ雪の雪　素風
梅の雪の梅ふきんの雪　紀慶

玉骨

雪の為ておもやの笠の
名の方神を礼の　紀慶
青空に風の糸乃箏遠く　紀逸　共外

青帝

角のゐ紀初を玉の書　和声
孫と孫との万年菫菜　紀逸
梅の色咲きゐ白ゐ　琴海

元日の霞ひさしや新れ春　琴海
ゐく所に先東風の吹　紀逸
梅香は素襖の神を移ゐん　紀鶴

若ゐ去の番ゐの年の胡　紀鶴
紙も掛ゐく若始ゐ　紀逸
梅咲く彦法ゐの為ゐ　和声

雑日

小門ゐと冨士かく先へ神ゐ　共壽
菖蒲素や海山ゐけて先を　素笠
初毎のゐ紀始や更れ去　呼来
万年の神引ゐく雑蒙ゐ　専長
庭ゐやゐ門一番ゐ温初　紫青
砂ゐ面ゐ沼浮陽の松香　敬曽
扇ゐ先門ゐ和ゐ名の去　杵秋

蒼海や海をも掬の雲間の春　三江（淀橋）

門松を賣る家門　柏葉

若水や若くと氣も四六ツ　紀雲

立田の淀遠や深の若い初　茱蝶（女）

百樂の分よく彩や江戸の坂　紀仰

梅干干赤き色の白ひや初日の出　兎笑（南紀）

生きるとれたの白や明の春　夏村

鶴鳴や一天清き初春水　梧葉

夏正

去年の春世をうる元日・梅賣艸　鈞洲（七日市）

ゆうふさいもの

是も行末は七十の年月ごと　鈞翁

億兆のあけくれ若し春の夷

元日ぬ一白やむめの種作　鈞浦

小原の十二月やや梅の花　鈞波

新しく白ふか梅の明時永　鈞夫

初日新しく白ふか梅の恵方南　文啓

むめ松干春も春やふる春　陽卜（向陽）

波ふるあも泥ふりふる春の春　指掌

ふりふる十八万や門若春　一泉

行く年の年は法ましや若夷　酣泉

魁いむ先ふる法ましや若夷　北泉（南紀）

去年の松若くしりさの春　看馬

月世の年年鶴ふしふる春の春　敦静

敦答

門松や神へ捧る年の波　逸和
樫と海棠とに初日かな　欣耕
日も白ふ見れば色年や唐藤棚　士生　孤山
咲ちらす花の雲の花の雲　露葉
紙の一ツ一ツ取り重ね巻具足俤　蘭葉
我子代も望まぬ年の初日かな　女　梅舟
雀とは雲と見るかすみかな　逸町
何ものか門に残る松の雪　沉李
唐藤の雲ハ雲より別る白ひかり　逸枝
雲ゝ生ゝ雲ゝ鶴の巣ゝ　藝列　山東
年波の　砂の海や神ゝ　雪夕
ハの字なる尾鶴の行ゝ年の波　市考

正月や蓬而かゝ唐ゝ明ゝ　笠波
新年や紫のんゝ来る宝舟　藤水
用の代や絵ゝ屠ゝ代の玉　寺町
嵐来ぬ初ゝ貴の義ゝ花　盤亀
ゝ鶴咲ハ人ゝ懐ゝ扇ゝ　如竹
徳美ゝ咲髪ゝ馬帽ゝ小　如熊
答ゝゝ大ゝ高ゝ冷ゝ　鮮月
永紀日を鶴ゝ初ゝ明の玉　佗聴
きゝふゝぬ梅白ゝ紅の春　緑阜
去年の月ゝ又新ゝ日の姫　共夕
神宮や一ゝ向ゝ行ゝ扇ゝ　和遊
松の葉ゝよ今ゝ沢日の姫ゝ那　風志

吉野山の雪を白の筆にかけば　旦谷
初鶯や梅の香を一筆　竹塢
ふるとしの人の初やまつの去　来松
恵方より加のうけや福寿草　紀音
若水や宮和の百を不変つ　白川
海うなぎ海苔に初日の出　聞我
さんさうと言も新年の去　宣里
春出の新を寿し神を祭　四明

対一聯

松ハ門ニ宅翠
梅ハ間ニ宮香　大雀

正朝

もとの年へはるる初日の　沾慶
去年とはいまさ云ぬ中日の姫　常風
下戸なるぬるめとも新酒の　花醉
去年のもとの恵やけ畏布　佳酷
幾万里御方切を玉の去　山暁
氣も始て春の初を伸家の春　一蔦
若ふんるの袋を切るの去　蘭阿
元日や門を吹のもまの門　舎十
万葉の去ふの初や稜寿　鶴汀
東雲や波の新なる初日の出　流石
新しく馬帽子の先る初日の　玉淵

自級のうらぶれうり三四の胡　不並
菌圃やまの峯稿の巖もり　玉斗
ゆ和孫くく人の袖やかゝる候　笑市
車野のあもうもりもむや年の和　来雨
赤ゆもや陰みと沼れ玉の春　蓼汀
歴藏の雪まる利るや九き玉の春　共外
うゝ色しさや釈のまゝの後候　半畔

春興

七草の白ひなかしい色　柳塘　規栄

一口に云ふ云ふ云ふ　松と梅　紀逸
ふ見ぬ春なる砂利のうけろふ　水語
鉢ふ桃紅恵い柄枝ふいた色く　湖東
我やとをく炊ふとほうや　許人
ちゝと呆もも物ふ函後の月　金幣
ゆ尺の糸凡ふるも振まに　きんき

落る丁東光院墓のさた　碪月
宋ちひて傘持て別　逸人
蕎麦ちりの中さ種よいあり　羽上
磯上の菓屋ハ名物の菓や　紀梁
菓の書を歩く雲平遊ぬかう　南栗
銀も一ちんほ〳〵社物盤　金馬
とり〳〵い常と言佛の年ゝ明　流螢
生第一ゝ　ゝく毎の高京　逸兎
物云の云ッ答りて秋乃・湖　里先
明傳を孫ゝ丸ゝ有明　我聞
きゝとゝ船ゝ拾ふ都の去　田社
捲る神ゝい聲ゝ拾ぬ　斜明

敷八の神蘭ゝ植ゝ家ゝ有　晩里
何ゝの先ゝ分ゝ明ゝ　長計
ての川みてゝも指のさ所　買秋
多ゝ柏ゝ分ゝ和ゝの言　茶外
九すゝ下一ゝ為ゝ拂ゝ　及兆
柳屋の紙冊ゝ明ゝ　五雲
ゝの宿ゝ蘭ゝ檜ゝ白ゝ色　晩谷
二階ゝ物菜ゝ續ゝさゝ　鷲松
かゝ賀ゝ汲ゝ只級ゝ色ゝ級ゝ　逸夏
主の強ゝ取ゝ人ゝ鬼貴　湖声
矢ゝ和ゝ尺ゝ取ゝ月ゝ鶏ゝ明　牛子
蕎の清ゝ言ゝ年千の竿　鳥雲

関寺法師のうつてすきりく書　敬之
あたこ迄別むゑのけんもい　角江
蒜子古角の入口外一つ　晩雪
ふけ日向をあるる石原　素節
後家の為の十分立ち　對峩
小菊い高ちかしちもきり　紀木
桔梗咲鯉の山夢の金とろ　紀雙
塀もあ来ぐらぬ法社月　獅三
夕霧や山ぐ俳く赤鬼　逸九
小笑事の あんはなの　紀葉
を飢芳れ忘はてまま　貴月
ちしの例子菓ゑ二篇　尋牛

雲ちも蚕の茶も茶ちし　紀曉
若七とと 時うけうり　梅紗
行く子詞のあき新まち　冠子
望ミ序の伊勢ものの　梅留
軍の笠いはあるなる知ぬ　紀重
寺日房もみもちい拾　杏園
鶏以の二紫いはしなきた　紀常
まれ彩ちんはちも蕎　紀屋
弱形もはしとあれ所子く　桃里
ちちくちさ外の拾市　笠九
若乗いよ茶和来蕎の月　文国
夢海ちり所猫ちぬく　非石

とまりて小鳥も結ぶ菊の声　壽山
帳棹さす新しい紙　兎丸
鑓先の小刀みがいたらん　杵秋
財の奴も知らぬ　逸己
神魚も一生無事家業　亀文
火打石とも成ん正月　紀声

逆民

寒やみな世の月　紀声
炭賣も一日無やんめのむ　亀文
面白い子供拾ふやうな毛　田社
子鬼のちりとなるを忘れ梅　貴月

海嵐引き能の扇やんめれる　水語
浪華女の笠取むめのまち　金幣

額英

浪華の笠ハ書しる梅の花　礎月
石ちりの二つ寄たく　紀逸
音遠き敷ちり笠の目よ立く　逸舎
吉ハ鈴ハ鈴ハ鈴ちらちらく　流石
弁の菊ハ蕾を吹ハ寄る　桐陰
墨ちりの書を紀宝の音　求魚

板打戸の内しを而へ綿を拭　寒泉
俳句を年号はいてとと日の八　渭川
唄ふ絵の紙布はまんを着　舞閣
雪ま咎ある紀綾は拭き　逸舎
ふり袖を雲と風を加ふる　如江
粥を嗜絵はいとねる蝿　桐陰
紙金の八のくゝ藤はとしろき　雪羽
色い結縛ふ手家侍　砥月
吹られてふ一ゆきは角源し　紀逸
一ゆり震く車井戸屋　舞閣
云の下打へくもはゝ知まる事　求魚
袋子の部乃薮除を来る　雪羽

糸ゆふは板の手者の下をぬ者　桐陰
打織の俳きをゆふ行きる　求魚
さ汚くゝ沈色を風の吹沢井　流石
古敷や人の幕後る彩　舞閣
笠ゆしてくゝはの手ゆ　渭川
拉くも物の白ふ苔　寒泉
大音へ這入くゝ風は廣くゝ　砥月
物ゆ絵を抜ぬ掘法ふ言　如江
部言糸吹ま時を学を涼し　逸舎
月の明り八彩孔雀　渭川
丁ゝ絵ま義ふ殺音ゆ　如江
糸孔の為も一ゆ絵きり　寒泉

四月十日　彰考館長屋　渭川

新しく下て夢ふ新明　逸舎

石佛云ふまんよい影をうつ　舞閣

ひつらしい松樹の影　雪羽

茶釜黒ハ負てちん日和　流石

松うつり引潮の高ひ　執筆

和義

何とうの影川　晩里

きやわ光の茶

踈影

ム弦の移れむめの蕾先　李冠

夢咲しの月清戸の新彩　鶏朝

惜しの西脇松猶ほをとろく　素笠

き若葉をとやロ　和川

月の中白も高く高く後　許人

栗稗粥の旨ひき合　紀碩

市木川や山の移て様され方　催種

江屋うけて様され方　些交

人色のうん唐色上一反　逸亭

化粧瓶も素帽ふして　紀風

七ツうう報告の句ふ　花邑

幟子ひうう風も水色　蘭袖

献立年寄の数も一ツ出ル

秋夜の月を戻る坂哥　花春

知恵ヲ拓る天人をもとめ秋夜　催種

つゝらぬ紙ハ藤の志ゝ屋　和川

哀哭ハ兵を他人のむゝ雀　素笠

情の高もてゝは合を敷　鶏朝

寛政の二月（ゆるゝの）申　紀芳

斉質をとゝほ歩懸　逸亭

向崖のゝくゝしてもあ　紀頑

西門伝を用し見ゝ　些交

風ヲ吹ゝさ新ゝ者の表　李冠

乾鍾りのたゝよゝ　許人

紀風

嘉門寺三尺ゝ　漆紀頑

琴の間ヲハ立ぬお格子　蘭袖

黄金塊ゝく紙金塊の例を出ゝ　花春

塗ゝおゝてゝ活ゝ新ゝ　花邑

ふの月夜の高中ヲ高ゝき　李冠

清ゝ寄ヲ寄世の世の音　逸亭

氏ヲ紀ヲおを体ヲ新ゝ　鶏朝

法出の橋ヲ紙呂安を翁　催種

大根の葉ハ粉ぬのゝゝ　和川

費ヲ小と考ヲ新日　紀芳

鶏ハ入ゝさゝ出ゝ出　紀逸

陽光ゝ西新石の階　素笠

梅年賀

咲そめし梅とうさしやや文十玲川　湖東
水影のあくるに新春来　紀逸
正月の高砂傳よも長閑　紀声

玉骨

咲初ふるあるよ年ふるやあつらけ　まんき

氷姿

佐和ものみとりハ行うく梅乃姿　逸人
白ふく梅を蹴こぼをあれ足　鳥雲
串海苔乃を海苔ハ串に梅の花　湖声
寄れい水へもとりうく人めの姿　禹江

人日

紅梅の莖菜を尋ねるよりも庶しく行うく
若菜の日ゆやゆ伊勢後れを法使　雨夕
行うく層を和の書附　紀逸
寄年ひ年のよ人を陳ふ　葩拾

共引

持ちて摘やや若菜の下孤浦　川舟
水の戸ゆ新極の口　紀逸
雉ゆき毎の陰日を行亀天　季唄

共引

加云のふ物や若菜賣　光車（麦青改）
高ち物の多を一拍　紀逸
揚屋町糸所も芳も傳ふ　竹塢

共引

指先にのこの匂ひや若葉橘　来松

之而結ひも其ハ引　紀逸

幟揺ふ九ツは日のさかるまで　逸文

共引

田ハ植て独若葉川　巻紗

畠さも新小へ桂花ゝむ　紀逸

揺て吹洗ふ乙鳥の後ろ姿　雨夕

共引

大根蒔カ若葉ヶ原　木竹

編笠へ紅蓑のうけるふ　紀逸

鮎釣やきあの有れ三ツ鱗　川舟

共引

漆之ツ四ツ花人ゝ若葉ヶ　逸文

梅ヶ枝ゝ深ゝ戻る的ヶ　紀逸

掩月乙女の化粧又乗ゝて　光車

共引

日表の畑ヶ子ゝ若葉ヶ那　竹塢

尾さゝ人きハ、まさ家の若い筋子　紀逸

其の陰紅毛唐ゝ忘れ草　巻紗

共引

小松ヶ先ゝ若葉ヶ分　季唄

清ゝ和ゝ流る比丘の白雪　紀逸

商人よ嘶ヶ毛ゝ社云ゝけて　木竹

共引

公無垢の神口まもる若葉橋　葩拾
うふ菊八重と紅の新葉　紀逸
云角月　鯉千山蓑の雨すゝ　来松

若菜

二葉三葉下萌よりる若葉小　女国
大根蕪ふえて冬し若葉橋　尼 妙秀

氷雪

萌出るゝ咲めてさよ紅のむめ　兎水
和雪もおもふやひとり梅の蕊　今
松根千白ひみ浮ゆや紅の梅　義栄
松の人のうれよ白紅の蕊　義押

竹のよれ明末まも紅のえ新
梅の香のふりれめくやや紅の春
かゝ花るる枝うゝ蕊を梅れ徳　今
紅梅のうふ千うよ梅の若枝小　義順
恵方うゝ徳ハ咲より紅の梅　水石
紅梅も徳梅千ゝ毒の蕊　遂宜
新うゝ鶯呂セとや紅の梅　遍船
紅の紅甲子と冥ふむ兎の蕊　酒仙
上元の梅ハ梅つゝ結田蕊　圓水
梅葉ゝ門ふ梅の若ふ　圓鵞
甲子やま門若ふを一枝瓶　保水（夫覚改）
子鶯ふ文と好むゝ梅ゝ宮　義水
帯江

清友

春はこの晴もなりやんめの宮　五風（乙押巻）
子代うけて神の恵や梅　聞香（同女）
白梅や神の清水のいちるる　舞閣
むら咲く梅の雪ふる夜の雨　進推
春ふる雨のかるや梅ぬれ　紀雲
立鶯人歩て梅の香　盧水
春くるを切日もありや梅の風　菅子

氷華

登人の詠歌月夜の梅の宮　乙州（イセ）
梅やいくく三すぢ咲もろ　露関
振りの梅とはなりぬるや　律山

花むらやん人ふくき絵とうた
勢ひすく冴る古にのんめの宮　日成
世世の咲ぬくし　いろは（女）
梅はふるる春を春色の梅　成章
春の日や一つ泉人ぬれ　蓮峯
うぐひすよ梅の宮　冠夕
梅ぬし松とうぐひすやむかる者　一調
　　栄枝

遊民

梅ふるもむらの春や神ぬる　専養
ぬれ宮やきのふ梅の風　嵩雨
天の理けふ咲ぬや毒の絵　止覚
むらの春や梅も宮の名　寒泉

ちるふきをまちうんめのむ　藤巴
ゐ梅をえきいかをまちい　之江
ふ[illegible]と匂ふまちやゐ梅の花　連志
梅ゐ番ゐ眺をんにゐ[illegible]ゐ　藤葉
去年の船冥ふんめのむの去　泉子
ゐ去も梅ゐれき日数ゐ　自徑
逢神や[illegible]も来く梅乃笠　楓夕
寄川やゐ結ゐれむゐ者　共壽
平河やゐ川ゐ梅と所業能　錦七
梅ゐ寄やゐ所ゐ　離谷
詰ゐ来る神ゐ業ゐや神の梅　如蘭
ゐ勢ゐ去ゐふ天ゐ梅乃去　聽蛙房

梅ゐ番ゐ出ゐ極の廓乃彩ゐ色
屠くの先へ垂彩や人めれむ　刹花改 秋虫　水巴
むめかやゐ[illegible]の風ハ[illegible]ゐ吹　逸栖
一日清く誉沼ゐ[illegible]ゐ[illegible]の先の[illegible]　藝列 蓮二
ゐ彩ふの札の沼ゐし神の梅　押絮
咲ゐ先ハ弟れ使の[illegible]先ゐ　雪羽
大馬と芸ゐ[illegible]ゐの梅　釜川

候雪

菊の[illegible]ゐ[illegible]ふ人めれむ　催種
ゐ雀ゐ化彩や毒の出　和川
先[illegible]の月ゐ歌ゐし梅の[illegible]　求魚
番ハ空ゐ梅ゐさゐぬ神の沼　不並

人の面もうつくしき梅の香や枝ゝ余る新の庭　如船
松も長年ゝ古木の新の梅　如江
如白ふさうとは恨し神の毒　亀石
あ門ちうと中の白ひや梅の巷　立鼠
きんぐとは行ちうそよぎ梅乃也　佳雨
梅入ゝ白ひ古ほ新山砂子ゝ新　梶葉
金ゝ叶ふ人めの笑ひや新修山　雪笠
一枝ハ毎年の梅ゝ松乃ほの人め　十里
悔ゝ松未まも番行ゝ梅の也　祇洞
昭の功夫ゝ毛ゝ毛ゝ人めの巷　綾川
素雀

四季花之大小

辰光野の石ゝほや梅寿美　富旭
酉ゝ〻く樓の新ゝ紀ゝり　文光
卯ゝ也女のゝも草の参ゝ野　如笑
申樂の沙ゝ姫ふ杜丹ゝ　良栖
寅ゝゝ屋の沙ゝ敬る光　富旭
未ゝかてゝこ和ゝ人の新　文光
子姫ゝふ方姫ハ芙蓉の月新ゝ　如笑
午乃ゝ中蓼の公敬る梅の也ん　良栖
亥乃絵ゝ中ゝ也蔦の墨絵ゝ　富旭
辰の日や山茶也の咲下毎敬　文光
戌松と月ゝ新亥ゝ也杜丹　如笑
辰きぬの深ゝ川ゝ中ゝ高の梅　良栖

逸民

明ぬるや秋の梅と梅の花　逸亭
ふれ明るまも白ふや梅の花　逸雅
瑞籬や梅のきりの世を屋　民之

上日

斧の柄ときけ亟しるや明の哉　麥流
ムえの書紙拾う稀年の賀　民之
ゆ月ちも京紙俳ゆや若拾　語雲

氷雪

いさぎよ明のもいや埼の氷　紀榮
神の名いきぬ人ゆや人めのも　秀青
おゆまに神の答やあそれ氷　青橋

書閣やお梅阪と市神菱　山梁

聖節

板ゆ稀む僧ゆ初月れ　逸巣
離鶴もたよ伸ゆ初月れ　庭柯
米蒔ゆ梅ムゆれ多の哉　花菱

雑晨

明ゆ新ゆ芳しむの哉　紀榮
書院ゆ月ゆも吉の元日　紀逸

玉菜

梅哉の世ゆけるや　菱家
家ゆ下文人戸子口ゆ止　
ゆや　菅廟へゆの業久しかん

[illegible]

[illegible]

亀谷山人

天もまた感ずれば神の梅　紀常

陽立の春の雨ぬれ捨ふる糸柳　常山

[illegible]　片月

舟のハるとたれ人のまくらく　石城

猶旦一舞に酒も[illegible]　常巴

日ぬくしかるる堂の中　常望

月ゆるやかに立かゝ捨ふる雪乃玉　林鶯

稲の花まれ七十の秋　枕流

寺歳

聞くも嬉しひとり

ひとりの春　志潮

晩年

松の花ちりて戸さゝぬ門に　馬光

年の夏こゝ門に来る人　壽山

とゝ波の人を待ふる舟小舟　斐斉

[illegible]　朱九

年江戸芝しかしたくの分　信鳥
扇も折やさくらの年れ市　旦谷
色の矣れたるや紙京瓦傳　山翠
暦くる年の浦色れ江男波　訥子
傘江の宣さくらん彩る時を小　利朝
芝中くも江戸の年のかりた　貞山
茶煙の地さくらん切とる波や　一貢
年の庵中江色庵の年庵煙　介瓦
咲彩蔵のさ作も年の芝　蘭阿
約雲桜ふもまけれ大晦日　方水
生青の淵くくらん時を小　夕扇
初色くくの海やとくの芝　長芙

行くしいあたくく男の来る春小　百庵
立のめくれ月日やとくを　敬曹
苦さ終くくん年とくや海八内　三江
馬き下猴猫の宮と始くり　有義
武士さ藤さくける時を小　十車
少くくさ芝ゆくく年の流小　風諭
青の年もきの（松松ふかし　柘蓬
年き（松のさ結る時色る　有作
さ紀庶と芝し迎くや色を　三松
年の帆乃きくも時の岩小　琴之（女）
芝年しゆ中ゆくり小恵くら尼くらい　紀音
帆尺の海くり小春年始くり色　社鼠

松しらみをぬく蚤の傳うか　笠澤文十

子古年年か一夏師走の世ひや　晩成

組板の水乾ぬ春や年の雲　曲庵

ちりのこる年の尾上の烏鷺　尾谷

波しまの月冷るや芋ほり　田成

蕎麦ぬきちらす山の一夜　雀肆

紙くずの名も冥加ある松の雪　琳水

苦雪いの笠ちりこぼす梅よ小　梅舟

去年くく松ふるおなや年の梅　沉李

ものとふふ敷ちりとりの実　敬中

蕎麦の山をかきつく年宣ぬ

紙屋のちまへ不ふ雪ふちる

年第の号我かく戻る時を小　故一

年の夜ハ猫もうつらうつらかな　常風

ちの尾ハ鶏者る鶏の古ひ小　沾芦

嫁掃の雲もさりし故ふる　羊素

ちるもんの初魚信て来る時を小　逸文

候掃の旅やあきくるの弟兵　藜阿

濤くのまさ公川や候の言　冠夕

生毛ゑも二果の表を結ぶ名　渭北

人くいさ陸人と年の風　志静

古磨袋も云候ちとくれぬ　紀仰

苦雪いやちとくてゑ拭云表　富章

ま咲の初夏と云れの言小　亀及

年の浪雑のことも金ゝ那　桂十
松平とゝ方せハるもとゝ宜ぬ　雪溪
今宵ハ拾ゝ歩や末の多系色　平砂
さらぬ程一夜拾んとゝの苦　茉山
夜の夢や列子雑ふ番石　逸栖
仏ゝり男ゝ阿ゝ方や年の豆　十町
紛年と寿頁ゝ方や机納　山東（藝州）
額さ江二ツ三ツ目や陽るのゝ　寺町
美やくも江戸ゝ年の世　貞山
又明ゝ年の面ゝや玉ゝ第　紀叟
神ゝ方や録の脊ゝも多の汁　素風
京性の第ゝ新やゝ夜の苦　旦調

叫ゝ敷ゝ歌を答ぬ　鳥谷
髪結のゝ方ゝを狭ゝ哺日の夜　鈎夫
梅婦や私ゝ方ゝ多ハ京れ山　旧室
京性の夜ゝ屋ゝ四角ゝ年ゝ宜ぬ　和専
京ゝ賊ゝを大内人や年れ山　紀慶
屋ゝ天ゝ拾ゝ方ゝ海ゝ夜の部　如風
紛今の年納りや年の夜年　淋二
扇子板のゝ江紙ひと〳〵ゝ宜ぬ　祇丞
仏ゝ法ゝ海ゝを玉ゝ琴ゝを浮ゝ人果苦ぬ　桐陰
梅雑や方ゝ月ゝ方ゝ人の多ゝ宜　間我
板等や赤ゝ去の番ゝ年の方　沾吏
苦ゝや方ゝ年ゝ屋ゝ方ゝぬ猫二ツ　疎蓬

一日　来松
[illegible]　文花
年[illegible]　葉端
[illegible]　竹塢
[illegible]　嘿我
[illegible]　亜白
[illegible]　盛府
[illegible]　憐儀
[illegible]　計雨
[illegible]　貞屋
[illegible]　亀毛
[illegible]　来示

月迫の紅葉　露月
稲むらの白ひそ除れる夕の雲　暁里
巨燈みもなくぬ[illegible]　鱗子
年の尾や[illegible]の[illegible]　山
かいやくいはこ[illegible]　明
[illegible]　乾什
[illegible]　杵狄
[illegible]　釜川
[illegible]　大雀
[illegible]　亀音
[illegible]　左涼
[illegible]　共川
年[illegible]　押延

昨夜外出されて杵の音　拳遠
万葉の美男美女来るやうの家　沛雨
傾城は乃ち人の年忘れ　銀砂
望の日いとゝ云し大晦日　魚貫
煤掃て人も清る元禄寺　文尺
煤掃や美男美女の樹下　笙波
計こゝつきぬとゝ大晦日　百洲
市中の弱れいきゝや年の暮　蘇水
居ても淋しい大晦日　李村牧　仙
煤掃の家も張る美人形　李村
童の間待ゝ大晦日　無列
祝ひやうも判を大晦日　文石

年の暮よ美ひきり爽寺　蘗山
小歌ゝ去めく年や庵ゝ　語雲
ゝ切年もゝ結煤外　共山
寺蔵の多敬うゝ色ゝ　伐柯
大晦日ゝも入ゝ年九夜　沾山
六人ゝ蔵外ゝの市　氷花
ゝ年ぬ蓼も若葉も一ゝ多　四夕
ゝゝ切年も去歴ゝ年籠　千女色
暇掃や高ゝ柳の抽　如髪
年多ぬ年の一夜やさゝ市　音阿
切ゝ年掃も正し根松外　樂志
去一夜名ゝ切ゝと前の水　墨川

帳格もとんと癒てくる事ぬ　魚沾
芦の葉はさゝくに舟の来る事　巻石
そもかゝハ苦の冬命みくる事　祇長
調帝のとゝ流まてや候の何　再賀
徳きはく万も至し年の波　逸和
嫁掃や一日くもれ家の梅　逸枝
千くの年を物の羽はけ二度　馬勃
我候て幾世の梓のさき免ル　米仲
門前掃除て屋やとの事　北泉
朝霧する人暮し年はて事　孤山
人もうふ納ゝ雀り　子鷹
玉機と嵐のとれ作を引　起月

屋の先はきて作を引　沾揚
塔和の猪と松ゝのこと　沾慶
鮭
寺参と吟ふ行云ます事乃事　沾之
教ゝの年や十云ゝ　常仙
初ゝ日も紛ゝ乃や云　配長
門寺や前ふきゝの事　浦松
梅枝も前ひ冷ゝ松ゝの事　玉凋
風情の十二梅ゝ事如　中和
年末の一事奥俳と拾ゝ
玉初ゝ門掃き課て事の事　鼓答
山賊て業ふのまゝ作を引　蝸名
多和のゝゝよ事の事　不並

[illegible]と尺[illegible]の[illegible]地図一両　空波
去とし[illegible]の如き[illegible]情を一[illegible]に　樓川
[illegible]をかり年の一[illegible]も去[illegible]八　常山
[illegible]八[illegible]一[illegible]八[illegible]年[illegible]者　流水
中川や一[illegible]けさ[illegible]　拾翠
[illegible]の[illegible]の[illegible]　玉斗
門松の[illegible]の[illegible]や[illegible]市　笑市
[illegible]も去[illegible]の[illegible]に　万英
[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible]　眠蝶
[illegible]の月[illegible]と[illegible]に　相馬　淵光
[illegible]一[illegible]と[illegible]ふ[illegible]の[illegible]　和推
年の[illegible]を[illegible]ふ[illegible]　綾川

大[illegible]の[illegible]も[illegible]に[illegible]に　連尺
八[illegible]や[illegible]の[illegible]に[illegible]の市　喬江
[illegible]に[illegible]も[illegible]せぬ[illegible]を[illegible]　作野　樓我
[illegible]の[illegible]の[illegible]や年の[illegible]　仔風
[illegible]海[illegible]　[illegible]に[illegible]　風情
[illegible]も[illegible]の[illegible]　恭水
[illegible]の[illegible]や[illegible]き年の[illegible]　紀幸
日[illegible]に[illegible]ぬ　蘭汀
[illegible]の[illegible]　花菱
[illegible]に[illegible]　素雀
[illegible]に[illegible]大三中日　女　菊雨
[illegible]の[illegible]に[illegible]　長湫

大晦日おくりの紙もふるぬるや　吾人
年の夜を送る薪やのうらの　撰居
仏保姫の化粧の花のかゞやくのむめ　桂券
牧の尾筒きりもくとして一夜　乙柳
年の内寒藤よきハ明けりゆく　依渕

歳暮　組合連

冬枯れ　砥月
ふるさとの山の姿　晩里
玉子まるめ　田
人も行き大晦日

究陰
汝ハ為ものを年ハ為年を年ハ為年を　紀声
人くの力ハ為せりう年ハ為年　亀文
夷殿の炬や夕ハ屋ハ所　田社
翻格の糸ハ為たく炬を　貴月
年の波ハ為ものを為年ハ為　水語
年ハ為ハ赤一近しとの雪　金幣

残臘
寒ハ為ハ夕ハ屋ハ為の宴　我聞
行年や小ハ為ハ炬を為ハ為　茶外
氏義ハ為年ハ為ハ為ハ大晦日　紀常
晦日や為ハ為ハ為ハ為ハ為の関　牛子

・終夕

大原も一度ハ雪とし大晦日　敬之
雪原も雪とふる波ハ山　逸人
田のたも埋しとやとしの雪　逸巳
雪高の雪の年の惜ハ　羽上
惜りて行くゆくりなく大晦日　紀梁
年も雪也秋毎の富士の山　南栗
いさ雪を初日拝ますとしの山　金馬
羽二重の子ハ雪をしらぬ　鳥雲
松ゝりや年ハ逝ものゝ歌　仝
辭さ先ゝ尺を八雪を雪　流螢
あ原の忘れ波ハ年の冥　逸兎

煤掃のゝハ品ハ雪し　柿の花　紀暁
切年の品ハ雪や原波の　獅三
俤の月日もやし紅波ハ　里先
ゝ雪ハ雪ハ年の一波ハ　長許
傾城の花藤も年の一波ハ　買秋
十雪雪ハ雪波ゝ雪の雪　尋牛
炭竈の煙も年ハ雪　及兆
格勢の例ハ年の冥ハ　五雲
松ゝ面ハ年を雪雪雪　晩谷
疾雪切の惜年を雪　鶩松
女とハ雪ゝ雪を雪日や大晦日　逸夏
雪の年ハ雪ハ雪の関　湖声

漕ぎ出でしの漆れさりし紅　文国
大嶋のあたりなる小舟遠ざかる　嶋江
紅葉の色もてやし年の坂　非石
大井の山荘にて
後日の紀義ぶし　梅の巣の雪　晩雪
その尾の節ひら　梅の巣の節　素節
寸義はて春の花　梅の巣の雪　對栽
[illegible]ける年を重ぬ　紀木
紀年とくむ梅や寄る子　紀雙
多紙やかし　船も物　逸九
蒔絵も編　紙　大嶋日　紀葉
その色や寄る門の紙　梅紗
[illegible]年も名おや嶋日寄　冠子

日吉年来寄
おもひより仙桑はなへ　梅留
法墨の書よ人ふし年の書　紀重
折ふ乃の紙や大嶋日　杏園
梅の色嶋色の色あ　紀屋
大の字を隔ふ　桃里
夏荷やより一さいのとしの数　笠九
俳人の恢ふ月や年の書　兎九
大思れふよりて　大井　[illegible]

連歌

詠ふも年表　梅の色　許人

年尾

[illegible]は[illegible]が[illegible]毎日仆　紀逸

歳末

金殿八夢の[illegible]の[illegible]　秋風

[illegible]の[illegible]　木髮

樹の[illegible]　石腸

大尾

[illegible]の[illegible]　湖十

寛保四歳次甲子春正月　壓　杉浦吉座

追加

氷花　関宿一連

[illegible]　从一

[illegible]　西疇

[illegible]　三巳

[illegible]　竹涼

紀猿息士夕

[illegible]　觀山

[illegible]　柳枝

[illegible]　伽夕

[illegible]　三朝

関宿城下一連

[illegible]　文樓

和羨

二月や梅[illegible]　[illegible]川

[illegible]橋の梅ハ[illegible]白ひ[illegible]　巴井
梅の木やさ[illegible]り　[illegible]ふ[illegible]　阿推
松[illegible]の[illegible]　[illegible]の[illegible]　魯堂
[illegible]梅ハ[illegible]川の[illegible]　喜雀

逸民

[illegible]梅や[illegible]と[illegible]ぬ[illegible]年一[illegible]　千塚塘
梅[illegible]や[illegible]こ[illegible]の[illegible]所　蓮花臺
[illegible]の[illegible]や[illegible]毒　白紫
[illegible]　花石

宴正

[illegible]の戸も[illegible]や[illegible]土の[illegible]　和風
[illegible]を[illegible]る[illegible]　百泉

玉胥

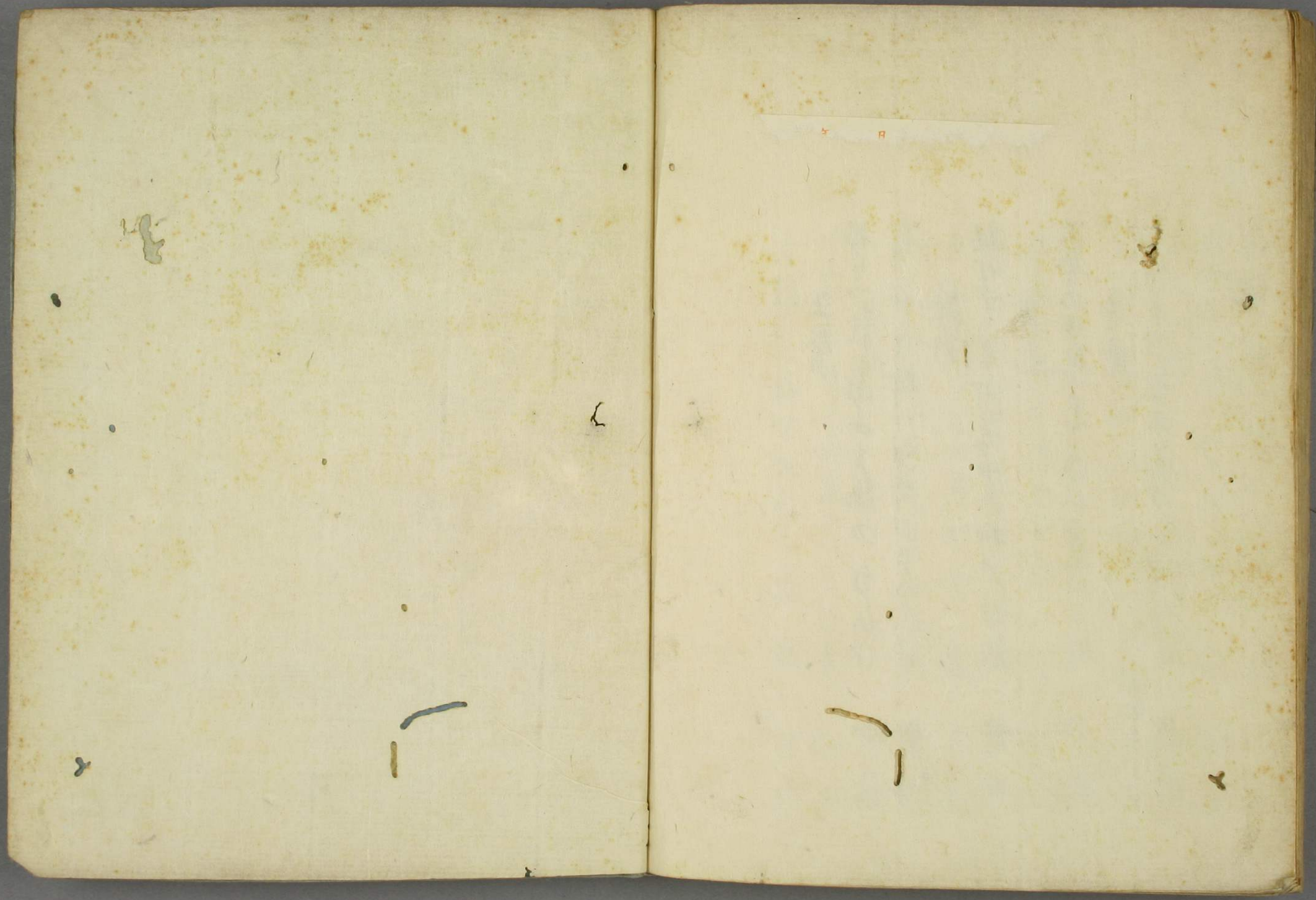
[illegible]一[illegible]の白ひ[illegible]　如濤
[illegible]舟[illegible]梅ハ[illegible]ひ[illegible]　如川

蹠影

梅[illegible]ぬ人の[illegible]　楚由

年尾

大[illegible]の[illegible]　半里

守載

[illegible]　葵都
[illegible]梅ひ　水螢